A Brief Note No. 203

発行日：２０１０年6月19日

高千穂･荒立宮へお礼参り旅行

吹田市　三輪　長司

５月末に車で九州旅行をした。今回の旅は、高千穂の荒立宮へお礼参りに行くのが目的だ。２年前の冬に九州旅行をした折、宿の女中さんの紹介で高千穂の荒立宮へ行って、神主さんに足の具合が良くなるように拝んでもらった。そうしたらその後、本当に足の痛みがなくなったので、そのお礼参りがしたかったからだ。

2 年前のときは往復フェリーを利用し、冬用タイヤ装備のレンタカーで、凍結しているやまなみハイウエーを走ったけれど、今回は自分の車で、往路のみフェリーを使い、帰路は 1000 円高速利用の高速道路を使った。宿は前回と同じで黒川温泉の黒川荘だ。

１.韓国人の団体旅行客で賑わう

フェリー乗り場は、2 年前は吹きさらしの寂れた大阪南港だったけれど、ATC の直ぐ前の岸壁に、航空機の搭乗デッキと同様の立派な乗船デッキが新設されていた。大阪港も観光客向けに順次整備されてきている。前回と同様、韓国の団体客がたくさん乗船してきた。

関西汽船の大型フェリー「さんふらわあ」は、車両フロアが二階層になっている。トラックなどの大型車は下層階へ、乗用車などの小型車は上層階へと誘導される。船の重心を下げ航行の安定度を高める工夫だろう。乗客フロアはその上の二階層だ。船室の特等と一等個室は船の前半部分を占め、二等船室は後半部分を占めている。この配置はエンジンが船底の後半部分にあるため、前の方が振動と騒音が少ないためだ。一等個室を取ったが、たまたま上層階の一番前の船室だったので極めて快適だった。

乗客フロアの下層階の後半部分に、ビュッフェ形式の広いレストランがある。乗客はここで食事を採るのだけれど、韓国の団体客がほとんど来ていないのに気付いた。彼らは通路の窓際に並べてある椅子に座って弁当などを食べていた。レストランの料金は高くはないけれど、韓国の物価からすると倍以上はするだろう。これが韓国人の旅行の実態だ。

現在政府は新たな経済成長の柱の一つとして、風光明媚な国土を生かした外国人観光客の倍増計画を掲げているけれど、世界一高い物価が大きなネックになっているだろう。

翌朝、豊後水道を横切るとき、晴れていたのでデッキに出てみた。日の出の太陽でキラキラ輝いている波を見ながら、早朝の冷たい風に当るのは誠に爽快だった。

２.景観素晴らしい　くじゅう花公園

別府からはすぐにやまなみハイウエーに入った。由布岳にはあいにく霧がかかっていた。

途中の峠にあるドライブインに入ると、直ぐ後から観光バスで韓国の団体客が入ってきた。店員は韓国語で挨拶している。店内のあちこちにハングル文字の案内がある。九重の観光牧場も同様で、韓国の団体客への対応をしていた。韓国経済はリーマンショックを乗り越えて現在絶好調のようだ。観光客の動向を見るだけで、どこの国が元気かよくわかる。

久住高原ではリニューアルされた「くじゅう花公園」へ行った。敷地は 20 万㎡と広大で、四季折々の花が植え替えられている。ここからの眺めは絶景で、北側にはくじゅう連山がそびえ、南側には阿蘇山が見える。ここには韓国の団体客はいなかった。

《くじゅう花公園》－遠景は阿蘇山－

３.黒川荘のリピーターになる

宿泊は黒川温泉の黒川荘だ。この宿の人気は高く、２ヶ月前に予約を入れたところ土曜日は満室で取れなかった。この宿は常連客が多いと、以前きたとき女中さんから聞いていたが、自分も遂にリピーターになってしまった。この宿の温泉の湯は半透明のエメラルド色で千金の値打ちがある。なんでも黒川温泉でこの色の湯が出るのはこの宿だけのようで、「この湯に浸からないと黒川温泉は語れない」と客同士が話していた。大きな岩をあしらった広い露天風呂で、エメラルド色の湯の向こう側にピンク色のツツジが咲いていた。正に一幅の日本画を観る思いだった。

部屋の女中さんが柳川出身だと話したので、柳川藩主直系の末裔が経営している、柳川の料亭「お花」の経営者の弟さんが、勤めていた会社の幹部だったと話したら、この女中さんはびっくりして、柳川藩や料亭「お花」のことを詳しく楽しそうに話してくれた。柳川の人にとっては、柳川藩や料亭「お花」の存在はどうやら心の拠り所なのだろう。

４.阿蘇山頂でミヤマキリシマを発見

翌日は天気が良かったので、絶景の「大観望」を経て阿蘇山へ車で登った。阿蘇山はガスが噴出していたため、火口へのロープウェーは運行停止になっていた。ここにも韓国の団体客がたくさんきていた。韓国の学生の団体もいた。考えてみれば、阿蘇山のような雄大な火山は韓国には存在しないから、韓国人には一度は見てみたい憧れの場所なのだろう。

ところで阿蘇山頂にはミヤマキリシマがたくさん自生していて満開だった。くじゅう連山や霧島のミヤマキリシマは有名だけれど、阿蘇にもあるとは知らなかった。

《阿蘇山頂のミヤマキリシマ》

阿蘇山の周囲には、富士山の周囲と同様に、湧水ポイントがあちこちにある。その一つの「白川水源」へ立ち寄るため、阿蘇山の南側の道路を通って下ったが、その途中に放牧地がいくつもあった。その牧場の入り口の路面には、全て真っ白な粉が一面に撒かれていた。現在宮崎県の牧場を襲っている「口てい疫」の侵入を防ぐ消毒剤である。この恐ろしい家畜の伝染病の伝染経路は、車のタイヤに付着して広まると言われている。自分の車もこの白い粉を踏んで走った。口てい疫の広域伝染の加担は避けなければと思った。

５.高千穂・荒立宮に念願のお礼参りを果たす

黒川温泉連泊後は、今回の旅の主目的である高千穂の荒立宮へのお礼参りである。
前日の夕刻に荒立宮の神主さんに連絡が取れたので、当日は神前で拝んで頂ける確約が取れた。事前に必ず連絡するようにと、神社を紹介してくれた女中さんのアドバイスだ。

お供え物としてお金は絶対に受け取らないので、お酒を持っていくことにした。高千穂のスーパーでご当地の風習を聞くと、一升瓶の焼酎２本をヒモで束ねてお供えする慣わしだという。これにご神前と書いたノシ紙を付けてもらい、これを持参してお参りした。

荒立宮の神主さんは、正装して待ってくれていた。早速神殿に上がってお酒をお供えし、一緒に拝んでもらった。これで気持ちが晴れ晴れになった。

６.下関マリンホテルからの景観も第一級

帰りの行程は、高千穂からまた阿蘇に戻り、そこから熊本へ出て九州自動道を通り、下関から山陽自動車道を吹田まで走行する。この走行距離は 700km を超えるので、下関でもう一泊することにした。下関で泊まった宿は関門海峡が一望できる「下関マリンホテル」だ。この宿は一年中フグ料理が食べられるのがウリだ。ここのふぐ料理は美味かったけれど、ここで飲んだヒレ酒は格別に美味かった。また海岸のすぐ側に建っているため、部屋や温泉大浴場からの海の眺めが抜群だった。

《関門海峡夜景》－ホテルの部屋から－

高速道路では SA に立ち寄りながら帰ったが、博多、広島、岡山、それぞれの大都市の近くの SA は美しく改装され、デパ地下のお菓子売り場と同じような名店街になっていた。それぞれの売り場は客で大繁盛していた。新しい流通チャネルの誕生を見た気がした。

今回の観光を兼ねたお礼参りの旅は、船中泊を含め 4 泊 5 日の行程で、総走行距離は 1200km だった。今回の旅は初めて行ったところがほとんどない。宿も一般の温泉旅館で再び訪れたのはこれが初めてだ。今まで訪れたところで再び行きたいところはそんなに多くはない。今回の旅の主目的が神社へのお礼参りだったにしても、魅力的な景観や宿がなければ恐らく再び訪れていなかっただろう。そういう意味で、北海道と九州、日本の両端には、雄大な自然景観、魅力的な温泉宿、味覚の、三拍子揃った再び訪れたい魅力溢れるところが存在するように思う。 ♪♪